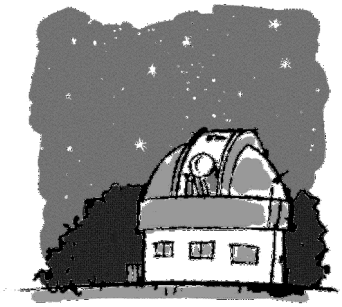
今月のテーマ　万人幸福の栞

純粋倫理は実行から入る



え・城谷俊也

『万人幸福の栞』は実践の書物です。実行によって直ちに正しさが証明できる生活の法則が書かれています。

中には常識をかけはなれた耳新しいこともあり、表わしにくいために、たとえをもってしたのもあります。すべて無条件に、このまま実行していただきたい」（十頁）

実行すると、そこには必ず新しい結果が現われ、思いもよらぬ幸福な環境が開けると記されています。信じるか信じないかではなく、やってみればそれだけわかるという学び方が書かれてあるのです。

さて、読み進めればすぐにわかることですが、本書には、実行しやすいガイドとして、古人の金言や他の書物からの引用が次々と登場します。

たとえば『聖書』からの引用もいくつか紹介されています。次のような言葉です。

門を叩け、さらば開かれん。」「狭き門より入れ。滅（ほろび）にいたる門は大きく、その路は広く、之より入る者多し。生命（いのち）にいたる門は狭く、その路は細く、之を見出すもの少なし。」（三十頁）

「おのれの如く汝の隣を愛すべし。」「仇を愛し汝等を責むる者のために祈れ。」（六十三頁）

いかがでしょう。抽象的な言葉を日常の様々な場面にあてはめれば、少しの勇気で実行できそうなことばかりではないでしょうか。

一方、引用文以外にも、ゴチック体（ゴシック体）で表記された文言が多くの箇条に存在することに気づきます。

「気づくと同時に行なう」の部分の強調を意味する太字のゴチック体は、著者が印刷するように指定しました。第一条ではここだけがゴチック体です。すなわちこの第一条でもっとも訴えたかったのが「気づくと同時に行なう」であったと見なければなりません」

（『ひとすじのみち』丸山敏秋著）

次に記す文言もゴチック体です。

「大を改めさせよう、変えようとする前に、まず自ら改め、自分が変ればよい」（四十一頁）

「うまく行かぬから、望みを失うのではない。望みをなくするから、崩れて行くのである」（百頁）

本書の最後、百六十頁にもゴチック体の文言が出てきます。

「片手をあげて額（ひたい）にあてた」

二十二ページに及ぶ第三部「死は生なり」の中で、ただ一カ所ゴチック体になっている文言です。

これは一九四七年、イギリスの植民地支配にあったインドを独立に導き、「独立の父」と呼ばれたマハトマ・ガンジーのエピソードとして取り上げられています。ガンジーは、自分をピストルで打ち抜いた青年に対し、瞬間、ヒンズー教徒が相手に許しを与えるしぐさをとったというのです。

これは常人ではとてもできることではないでしょう。しかし、会員心得として、「大を愛して争わず、互いの繁栄をねがいます」と宣言する我々にとって目指したい心境でもあります。

本書にはガンジーの言葉も一カ所引用されています。

「愛は悪に対する唯一の武器である。」（六十四頁）